



街のたたずまいにとけ込んだ駅

山梨の南の観光拠点として、にぎわう駅

身延駅は、正月の初詣客、2月3日の節分会、春のしだれ桜と、身延山への観光客でにぎわいます。かつては、甲州と駿河を結ぶ動脈・富士川舟運として利用されていた富士川。その富士川沿いを走る身延線は、舟運にかわる交通手段として整備され、発達してきました。この身延線のほぼ中間に位置する身延駅は、山梨の南の観光拠点として、多くの乗降客が行き交う駅です。

身延駅は、正月の初詣客、2月3日の節分会、春のしだれ桜と、身延山への観光客でにぎわいます。かつては、甲州と駿河を結ぶ動脈・富士川舟運として利用されていた富士川。その富士川沿いを走る身延線は、舟運にかわる交通手段として整備され、発達してきました。この身延線のほぼ中間に位置する身延駅は、山梨の南の観光拠点として、多くの乗降客が行き交う駅です。

かつての身延線は、貨物を取り扱う駅として、駅構内に操車場が設けられ、砂利やセメントなどの貨物輸送を行う拠点としてにぎわいを見せていましたが、貨物輸送が廃止された現在では、その広い駅構内にわずかに往時の面影を残すのみです。

東

海道線の東京・神戸間が開通してから24年後の大正2年に、身延線の前身「富士身延鉄道」が富士・大宮(現富士宮)間で開業しました。その後順次工事が進められ、大正9年には身延へと延びました。ちなみに富士・甲府間が全線開業したのは、昭和3年のことです。

甲斐往来

第三回 身延駅

シリーズ山梨の駅



contents

- 1 シリーズ山梨の駅 甲斐往来:「第3回 身延駅」
- 2 特集 やまなし・ゆめふじ国体
- 8 特集 小児救急医療体制が3月からスタート
- 12 山梨の旧道を訪ねて「笛吹市・富士河口湖町／御坂峠」
- 14 甲斐のひと、インタビュー「国井 雅比古 さん」
- 16 地球と遊ぼう「Vol.3 風っておもしろい」
- 18 山梨の食材再発見 医食同源「林橋」
- 20 知って役立つ暮らしの情報「静電気って何？ 静電気防止策」
- 21 やまのくに 山の花「ミスミソウ」



【表紙の写真】

身延町杉山地区にある南天。地元の人々の話では、お正月の生け花用などとして栽培しているとのこと。古くからの甲州盆唄にも「身延の者は声がよい よいはずだ 南天山の 水飲む…」とうたわれているように、身延町は南天の産地として有名なところである。毎年12月の中旬ころから、赤い実をつけた南天が京浜地域へ出荷される。